

## 教 育 委 員 会 会 議 録

令和5年1月定例教育委員会	
開 会 日	令和5年1月24日(火)
開 会 時 間	午後3時15分～午後3時52分
開 会 場 所	佐賀市青少年センター中会議室
出 席 者	委 員 中村教育長                      堤 委員                      小川委員 撫尾委員                      鳥飼委員                      長崎委員
	事 務 局 百崎教育部長 豊田教育部副部長兼教育総務課長 江頭図書館長 米倉教育部副理事兼学校教育課長 横田学事課長 北村社会教育課子どもへのまなざし運動・若者支援推進室長 納富社会教育課主査 川副教育総務課副課長兼総務係長 王丸教育総務課主幹兼教育政策係長
提 出 議 案	な し
協 議 事 項	な し
報 告 事 項	令和4年度佐賀市二十歳のつどいについて
欠 席 委 員	0 名
傍 聴 者 数	0 名
報 道 関 係 者	1 名
会 議 録 作 成 者	教育総務課副課長      川副 清隆

## 日程1 開会の宣告

(中村教育長)

皆さんこんにちは。先ほどの社会教育委員との意見交換会はどうもありがとうございました。皆様方からたくさんご意見をいただき、時間いっぱいいろいろと協議をすることができました。先ほども申しましたけれども、学校教育と社会教育が一緒になって子どもたちを育てていくことが大切だと思いますので、これからもいろんな貴重なご提言等もお願いしたいと思いますし、学校訪問や幼稚園、保育園も含めて、いろんなところに学校訪問等をされたときには、またご意見等もいただければと思います。どうぞよろしく申し上げます。

それでは、これより佐賀市教育委員会1月定例会を開きます。

本日は、6人中6人の委員が出席しておりますので、適法に委員会が成立いたしております。

配付しております日程に記載の事項につきましてご審議等をいただくこととしておりますけれども、ご異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

## 日程2 会議録の承認

(中村教育長)

それでは、日程2、会議録の承認です。事務局より会議録の報告を求めます。

(川副教育総務課副課長兼総務係長)

12月20日の定例教育委員会の会議録につきましては、先日、皆様にお送りしておりますとおりでございます。よろしくお願いたします。

(中村教育長)

報告は終わりました。報告内容に質疑はございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議がないようですので、会議録は報告のとおり承認いたします。

## 日程3 教育長報告

(中村教育長)

次に、日程3、教育長報告をいたします。

佐賀市教育委員会1月教育委員会報告をご覧ください。まず、先月末から今月の行事について幾つかご説明いたします。

12月17日土曜日に佐賀県教育フェスタが県立美術館ホールでございました。県の教育フェスタは、毎回いろんな形で、小中学校の取組だけでなく県立学校の取組等についても発表等があります。今年度はICTのプレゼンテーション発表だけではなく、就労支援に向けた特別支援学校の取組発表ということで、実際に特別支援学校の生徒たちが来て取組を発表するものがございました。また、司会進行も高校生が行っております。それと、小中学校のふるさと学習コンクールについての発表で、北山校が今年度、中学校の部で最優秀賞を受賞しました。生徒会が中心となって作りました「北山もりあげ隊」というパンフレットを基に発表したものなんですけれども、ふるさと北山の魅力を町内外の人たちに伝えようということで、一生懸命考えて作ったパンフレットを富士町内のいろんな場所に置いたりして、富士の魅力を伝えていくという、そういう取組でした。本当にすばらしい内容で、私たち見ている者にも伝わりましたし、地域の人

が自分たちのよさを再発見することにもつながったのではないかなと思っています。昨年度は富士中学校の同じような取組が優秀賞だったんですけど、今年度は最優秀賞ということで、来年もぜひ別の学校にお願いして佐賀市のいろんな学校の取組をここで紹介できればと思っています。

2つ目でございます。佐賀市少年の主張大会がメートプラザ佐賀で行われました。今年も感染症対策を取りながら、ほぼ平常に近い形で実施されました。今年度特に印象的だったのが、ほとんどの児童生徒が原稿をほとんど見ずに身ぶり手ぶりを交えながら発表してくれたことです。恐らくこれに向けてとにかく頑張ろう、自分たちの思いを伝えようと、相当事前練習をしたのではないかなと思ひまして、そのすばらしさに感動しました。小学校の部の最優秀賞が嘉瀬小学校6年の川内悠愛さん、中学校の部の最優秀賞は川副中学校の内田七海さん、優秀賞は報告に書いているとおりです。今回はSDGsのことについて書いている子どもが多かったんですが、小学校最優秀賞の川内さんも、身の回りにある様々な食品が食べられずに捨てられているという現状を知って考えたこと、そして、それを解消するために自分で取り組んだことについて書いてくれており、子どもたちにSDGsの考え方が少しずつ浸透してきているなど感じました。大会を実際に見に来てくださる方は、ご家族の方が多いのですが、ほとんどの校区から参加しているこの大会が何らかの形で多くの人に見ることができたらなと思ひました。例えば、オンラインでつないだり、アーカイブでいつでも学校等で見るができるなどの取組ができれば、さらに多くの人に伝わるのではないかなと思っています。

ちょっと飛ばして次のページの4番、佐賀市出初め式のことについて少しお話をさせていただきます。コロナ感染拡大防止のために参加人数を制限しての実施でしたが、すごく寒い中、南部、中部、北部の各隊が集まって元気いっぱい行進していただきました。長年消防団活動にご尽力いただいた方の表彰等もあり、地域の防災のためにいろんな形で取組をさせていただいている消防団なんですが、現在、若い人がなかなか入らないという難しい状況になっているということでした。ただ、佐賀県は全国の中では消防団の組織率がかなり高いということで、これら多くの人たちのおかげで多くの命や財産が守られているということを私たちがもっと認識して、その感謝の気持ちを消防団の皆様方にお伝えしなければいけないというのを痛感した次第です。

最後6番目ですが、佐賀うちどくフェスティバルが1月14日に開かれました。これは県内のおうちで読書をするという「うちどく（家読）」の啓発・普及を目的として開かれているものです。事務局は伊万里市なんですけれども、今年が佐賀市、来年が鹿島市で開催ということで、来年が10年目となり一応最後になるということでございます。今年度の取組としては、実践発表が2つ、1つが富士校中学部生徒会文化委員会の取組、もう一つが市立図書館の手づくり絵本教室の取組を紹介していただきました。富士中学校は、市内の中学校18校の中で図書館の貸出冊数が2年連続で1位なのですが、もともとは貸出しが少なく、どうにかして貸出しを増やそうということで、生徒会の文化委員会が中心となって取り組んだという生徒主体の活動であったことがすばらしいと思ひました。また、バス通学の子どもがいますので、借りた本をバス待ちのときや家に持ち帰って読んだりしながら、子どもたちは読書の量を増やしているということでした。市立図書館の手づくり絵本は、私も拝見しましたが、親子で作った手作りの絵本を飾ってあって、その絵本を朗読していただき、子どもたちと保護者の手づくりの良さがよく表れておりました。こういう取組がもっと広がっていけば、小さいうちから本に親しみ、本を読んだり自分で考えて作るということもできるんじゃないかなと思ひましたので、この取組については見ていただいてよかったですと思ひました。

それから、中川ひろたかさんのトーク&絵本ライブがあり、私もわくわくしながら見させていただきましたが、とってもよかったです。絵画終わった後、ここで紹介していただいた絵本をすぐにお買い上げして、孫へのプレゼントに持って帰りましたが、娘もありがたうと言ってとても喜んでくれました。中川さんから絵本のすばらしさが分かるように教えていただいたのですが、参観者が少なかったのが本当にもったいなかったのが、

多くの人に見ていただけたら、もっと本のすばらしさを実感していただけたのではないかと思います。

その後の資料は全部別紙資料ですけれども、3つ目が文部科学省の来年度の予算案になります。働き方改革の予算やG I G Aスクールの予算などがあるんですけれども、その中で、4番目の新しい時代に求められる資質・能力の育成ということで、教育課程の充実や道徳教育の充実などが挙がっております。今、学校教育はどんどん新しくなっていますけれども、そのためにどう進めたらいいかということで、教育課程の充実では小中高を通じた英語教育強化の取組というのが実施されるようになっており、今後、英語教育が大きく変わっていく可能性があると思っています。また、道徳教育については、道徳が教科化されているんですけれども、アーカイブの充実などを行うということで、今後、子どもたちの心を育てるための道徳教育の充実がさらに実施されていくのではないかと思います。

次に大きな6番目が教育相談体制等の充実によるいじめ、不登校対策等の推進ということで、これはかなりの額になっているんですけれども、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの教育相談体制の充実が挙がっています。今でも大分以前に比べたら配置時間も増えているんですけれども、さらに充実していく方向で考えなければいけないと思っています。特にスクールソーシャルワーカーについては、福祉関係との連携を図る上で充実することがとても大切だと思っています。例えば、発達障害等の二次障害で不登校になっているような子どもたちもいますので、医療機関との連携などを考えたときに、スクールソーシャルワーカーの力がこれからも重要になってくると考えています。

それから、大きな4番目が文科省が示している「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」です。新聞等の報道で、国が休日の部活動地域移行の完全実施を令和8年度としたことがちょっとトーンダウンしたというお話があったと思いますけれども、佐賀市も佐賀県も令和8年度目標で取り組んでいこうと考えており、このガイドラインを基にしながら取り組んでいきたいと考えております。

最後がS A G A 2 0 2 4国民スポーツ大会リハーサル等の概要ということで書かせていただいております。ちょっと小さくて見えにくいんですけれども、来年度、令和5年度に2024に向けたリハーサル大会がたくさん開かれます。各競技でリハーサル大会が開かれて、課題等を解決しながら本番に向けて取り組んでいくというふうなことになります。これについては今後、2024に向けて私たちも協力していくことが必要になってくると考えています。

先日、B a t o n s (バトンズ) というイメージソングの紹介もあっておりましたので、あちこちでこれからもその曲が鳴り響くことになると思いますけれども、盛り上がっていけばと思っています。

私からは以上でございます。何か質問等ございませんでしょうか。小川委員さんどうぞ。

(小川委員)

ありがとうございました。文科省予算の6番のいじめ対策・不登校支援等総合推進事業のうち、スクールソーシャルワーカーのことです。先日、教育委員の勉強会で、学校教育課の小野指導主事さんから不登校対策などの話を少しお聞きし、その時、佐賀市の不登校対策事業のスキーム図のような資料をいただきました。その資料の中に、スクールソーシャルワーカーは県教委が配置していると書いてありましたが、佐賀市が配置するスクールソーシャルワーカーというのはあるんですか。

(中村教育長)

回答をよろしく申し上げます。

(米倉教育部副理事兼学校教育課長)

スクールソーシャルワーカーは県が派遣しているのですが、佐賀市はサポート相談員を6名配置しております。サポート相談員が佐賀市独自のスクールソーシャルワーカーの役目をするということにしています。ただ、福祉的な面など、案件によってはスクールソーシャルワーカーの方が入りやすいという場合がありますので、その役割分担をしっかりとっていくように話し合っているところです。

(小川委員)

ありがとうございました。ということは、市のスクールソーシャルワーカーはいらっしゃらないということですね。

(米倉教育部副理事兼学校教育課長)

はい、その代わりにサポート相談員を入れているということです。

(小川委員)

分かりました、理解できました。ありがとうございました。

(中村教育長)

ほかにございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、質疑がないようですので、教育長報告を終わります。

#### 日程4 報告事項

(中村教育長)

続きまして、日程4、報告事項です。

「令和4年度佐賀市二十歳のつどいについて」、説明をお願いいたします。

(北村社会教育課子どもへのまなざし運動・若者支援推進室長)

社会教育課から説明をいたします。課長の星下は先ほどの会議から引き続き社会教育委員の会議に入っておりますので、私子どもへのまなざし運動・若者支援推進室長北村と今年度の担当の納富から説明いたします。

(納富社会教育課主査)

今年度担当をしています社会教育課納富といたします。よろしくをお願いいたします。

私は三瀬村出身で、今日、多分雪が結構降っているので帰りが心配なところです。先ほど教育長がお話しになった消防団にも三瀬支団でラップ隊として入っております。

それでは、資料の1ページで説明いたします。令和4年度2023年の1月に開催しております佐賀市二十歳のつどいについてご報告をいたします。まず1番、内容及び参加実績です。開催日が令和5年1月8日曜日です。会場が記載しております8会場で行っております。参加者、対象者、参加率につきまして、今年度2023年と過去2年分を記載しております。大きく変わったところで説明いたしますと、まず、佐賀会場の佐賀市文化会館ですが、2023年は1,444名の参加者となっており、昨年よりも200名ほど増えております。こちらは、対象者としては減っておりますが、参加者が増えており、86.8%の参加率となっております。次に、大きく変わったところで川副会場ですが、スポーツパーク川副です。88名の参加で、昨年が112名の参加ですので20名ほど減っています。全体で1,986名の参加者となっております。対象者は、昨年よりも減っており2,272名、こちらは令和4年9月末時点の住基対象者の数となっております。参加率としては87.4%となっております。

次に、2番の記念品です。記念品は2種類お渡ししております。一つは、鶴屋菓子舗の名入れ丸ぼうろにお祝いメッセージを入れてお渡ししました。実物がこちらです（実物を示す）。「はたちのつどい」と「ありがとう」と名入れをして、お一人に2つを渡しております。それと、2番目が佐賀市出身のイラストレーターの方で、中村満（326）さんのメッセージカードを作って参加者の方にお渡ししています。全体の参加者は先ほど1,986名と説明しておりますが、記念品を持って帰られない方がいらっしゃいました。

次に、2ページを見ていただきたいと思います。こちらは「佐賀市二十歳のつどい」に関するアンケート集計結果ということで、全会場分を載せております。参加者数が1,986人で、回答者数が1,986人、回収率が100%となっております。こちら100%となっている理由としては、二十歳のつどいの参加申込み時にQRコードを読み取っていただく際に一緒にアンケートに回答いただくこととしましたので100%となっております。ただ、こちらに書いているとおり無回答がありますので、その分は除いております。

まず、質問の1-1、居住地についてです。佐賀市内の方が1,466名、佐賀市以外の県内居住者が71名、佐賀県外の方が449名の参加となっております。

次に、質問の1-2です。現在の状況ということで、まず学生が1,420名、社会人が524名、その他の方が6名となっております。

次に、質問2です。「あなたは、「子どもへのまなざし運動」を知っていますか？」という質問をしており、「知っている」が245名、「見たり、聞いたりしたことがある」が485名、「知らなかった」が1,227名となっております。こちら表の右の方ですが、認知度としては37.3%、こちらは「知っている」「見たり、聞いたりしたことがある」を合わせた数値が37.3%となっております。令和4年度の満足度調査をしており、一般市民の方が355名から回答をいただいている満足度は58%となっております。

次に、質問3です。「あなたは、佐賀市が好きですか？」という質問に対して、「すごく好き」が713名、「まあまあ好き」が1,136名、「あまり好きでない」が85名、「嫌い」が15名です。「すごく好き」であると「まあまあ好き」であるの合わせた数値が94.9%となっております。令和4年度の満足度調査で小学4年生から中学3年生の680名からの回答の90.2%を超える数字となっているのが「好きである」という94.9%のところですが、こちらは、子どもへのまなざし運動が今年度で15周年を迎えますけれども、その成果が出ているものだと考えます。

次に、質問4です。「SAGAサンライズパーク（アリーナ）で、会場を統一して「二十歳のつどい」を開催することをどう思いますか？」ということで質問をしております。こちらにつきましては、今年度の対象者の方は実際、次の年に参加するわけではありませんけれども、後輩のためにということで質問をしています。表の2番目のところで、全体からまず説明しますと、「良いと思う」という回答が全体で78.7%、「しない方が良いと思う」は21.3%となっております。パーセントが多いところは、佐賀会場が81.7%、富士会場が90.5%となっております。逆にパーセントが低いところは、三瀬会場が64.3%、久保田会場が60%となっております。

説明については以上です。

（中村教育長）

ありがとうございます。この件について、何かご質問はございませんでしょうか。長崎委員さんどうぞ。

（長崎委員）

質問2と3の認知度の下令和3年、2年の分は、これは新成人に対してのパーセンテージなのか、満足度調査の分なのか、お伺いいたします。

(北村社会教育課子どもへのまなざし運動・若者支援推進室長)

この質問2と3は、教育政策市民満足度調査と同じ内容を例年取っておりまして、R2、R3は新成人に対する数値ですので、佐賀が好きですかというのは今年度が過去最高の数値になっております。

以上です。

(長崎委員)

ありがとうございます。

(中村教育長)

ほかにございませんでしょうか。小川委員さんどうぞ。

(小川委員)

三瀬会場に参加させていただきました。お世話になりました。すごくアットホームでいい会でした。この表を見ますと、参加者15名で括弧のところが6名で参加率が250%とあるんですが、ここの解釈の方法をお願いします。

(北村社会教育課子どもへのまなざし運動・若者支援推進室長)

この参加率の計算につきましては、住民登録者数、9月末現在が6名で、高校を出て県外に進学や就職などをされ、里帰りして参加をされるという方が多かったということです。佐賀市の二十歳のつどいにつきましては、どなたでも参加して大丈夫ですとしております。例えば、他県や他市から来られて、佐賀大学に来られている方でも参加して大丈夫ですとしております。その結果、三瀬については6名の9月末現在の住民基本台帳対象者に対し15名の参加があり、250%という率になっております。

以上です。

(小川委員)

ありがとうございました。

(中村教育長)

ほかにございませんでしょうか。

(撫尾委員)

質問4の意味は、これは来年の話ですか。

(中村教育長)

お願いします。

(北村社会教育課子どもへのまなざし運動・若者支援推進室長)

毎年行うアンケートで、分散開催がいいか統一開催がいいかということは聞いておりましたが、今年の5月にアリーナがオープン予定ということもあってこの質問をしています。開催時期を特定した質問ではなく、今後開催するとした場合どう思いますかということ聞いております。

(撫尾委員)

分かりました。

(中村教育長)

文化会館だけではキャパの問題もありましたけれども、アリーナがあれば全部入るだけのスペースが取れますので、それができた場合にといいことで考えていただいたと思います。鳥飼委員さんどうぞ。

(鳥飼委員)

一つが意見というか感想で、もう一つが質問です。

私は久保田会場に参加させていただきましたが、会の中で二十歳の方からの感謝の気持ちを我々が相対して受け止めるというところがあるんですけども、会場には親御さんなども入っておられますので、できれば感謝の気持ちは我々ではなく、来賓の方はじめ親御さんとかに向かって言うような形が良いのではと思いました。この形が全会場共通なのかは分かりませんが、私も含めて来場された皆さんに対して言えるような立ち位置なりでやっていただいたほうがいいのかと思います。

あと、先ほど記念品の丸ぼうろがたくさん余ったというお話があったんですけども、それはどういうふう処理されるのですか。

(中村教育長)

お願いします。

(北村社会教育課子どもへのまなざし運動・若者支援推進室長)

まず、感謝の気持ちの立ち位置についてですが、混乱が生じないように各会場統一で市長代理の方と向き合せて新成人が誓いを述べるという所作にしております。お話いただいた所作が私もいいかなと今思いましたが、来年度どのようにするかというのは、いただいたご意見を参考に決定をしたいと思います。

丸ぼうろにつきましては、当日会場に来られなかった方もいらっしゃいますので、後日、お申し込みをいただければお渡しするというようにしております。

(鳥飼委員)

もし大量に余ったりするとかということであれば、少し日持ちがするものにしてフードバンクにお渡しするとか、そういうことができればいいかなと思っの質問でした。

(北村社会教育課子どもへのまなざし運動・若者支援推進室長)

補足をさせていただいてよろしいでしょうか。今年度、過去5年で最高の87.4%という参加率でございました。要因としては、Web申込みを事前にしたことだと思っています。例年は事前の問合せが殺到するんですけど、Web申込みをすることによって本当に少なくなりまして、若い世代の方にマッチした申込みの方法だっと考えております。特に1,444名参加した佐賀会場については、駐車場がない旨を案内状、市報、ホームページ、ぶんぶんテレビ、佐賀新聞などでお知らせしていましたが、これに加えましてWeb申込みでメールアドレスを収集しておりましたので、前々日の金曜日にもう一度佐賀会場のみの対象者へ駐車場はございませんという旨を周知しました。その結果、駐車場が利用できずに送迎で遅れて入れなかったという方は、佐賀会場は基本におられず、会場は満杯になって、非常に盛況な会となりましたので、Web申込みにつきましては、来年度以降も続けていきたいと考えております。

事務局から以上です。

(中村教育長)

ほかにございませんでしょうか。はい、撫尾委員さん。

(撫尾委員)

今まで文化会館大ホールで1,800人の収容人員で、今度アリーナができると8,

500人ぐらいとかいう話を聞きますけれども、それは周りのスタンドだけで8,500人入るのか、それともフロアに椅子を並べて合わせて8,500人なのか。

(中村教育長)  
お願いします。

(北村社会教育課子どもへのまなざし運動・若者支援推進室長)  
スタンドで6,000名ほどの収容人員です。具体的な計画はまだないので、もしするとなった場合にどうするかというのは、開催が決まってから考えたいと考えています。

(撫尾委員)  
二十歳のつどいをアリーナでするとすると、椅子を並べるという形になるんでしょう。

(北村社会教育課子どもへのまなざし運動・若者支援推進室長)  
そうですね。もしするとなった場合はそのようになると思います。

(中村教育長)  
ほかにございませんでしょうか。堤委員さんどうぞ。

(堤委員)  
先ほど北村室長さんのご説明であったんですが、Web申込みが功を奏したという話、このアンケートの回収率もまさにそうなんですよね、100%というか。

(北村社会教育課子どもへのまなざし運動・若者支援推進室長)  
はい、そうです。

(堤委員)  
本当に高い回収率で、確かな数字いただいたなと思ったところでした。以上です。

(中村教育長)  
やはり今の若い人は、手紙などで来るよりも、ネットを通じてスマホに来たほうがいいなというのを本当に如実に表しているなというふうに思いました。よろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、質疑がないようですので、報告事項を終了させていただきます。

#### 日程5 その他

(中村教育長)  
次は、日程5、その他でございますが、何かございますでしょうか。どうぞ。

(川副教育総務課副課長兼総務係長)

皆様のお手元に令和5年度の1年間の定例教育委員会と教育委員研修会のスケジュールを配付させていただいております。来年度につきましては、今のところ第2火曜日の研修会が15時から、第4火曜日の定例教育委員会が14時半からということで、開催を予定しております。よろしく申し上げます。

一番下に※印で書いておりますとおり、上記日程以外にも臨時会の開催、また市議会

等の日程により、日時の変更というものがございますので、その際はまた改めてお知らせいたします。

以上でございます。

(中村教育長)

日程につきまして、何かご意見等ございますでしょうか。12月は大丈夫ですか。

(川副教育総務課副課長兼総務係長)

12月は今のところ、12日と26日です。

(中村教育長)

今年度が、2回目が27日になるからということで1週間倒したんですよね。26日ということで大丈夫ですかね、皆様方よろしいですかね。

一応原案ではこのとおりということでさせていただきたいと思いますので、また変更等がありましたら、その都度ご連絡をさせていただきたいと思います。

ほかにその他で連絡等はございませんでしょうか。よろしいですかね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、これで1月の定例教育委員会を閉会いたします。どうもありがとうございました。

終了時間 午後3時52分